

- 1 向： 北海道庁長官に、ジブリ帰国行事
- 2 面： 富士登山駅伝(1音速)・ジブリ帰国行事(3音速)
- 3 面： 富士登山駅伝支張(3音速)・第1次帰国演習(1秒支速)
- 4 面： 対空艇回演機隊(1高人)・新隊長就期演習機隊(1旅人・ドリアン射撃(1飛行)・工子コンサート(1音)
- 5 面： 佐藤大祐長若に(1偉大)・第1回園検査空間(1最大)・新隊長就期演習機隊(1機隊)・H国園検査空間(1師団)



## 若き力が大活躍 全日本青年銃剣道大会

1普通連は8月13日、日本武道館で行われた第55回全日本青年銃剣道大会に参加した。

1月に実施された第68回全日本銃剣道優勝大会の団体戦において決勝戦で惜敗し、連優勝となった先達たちの重圧を果した。

また、1普通連は8月13日、日本武道館で行われた第55回全日本青年銃剣道大会に参加した。

また、1普通連は8月13日、日本武道館で行われた第55回全日本青年銃剣道大会に参加した。

また、1普通連は8月13日、日本武道館で行われた第55回全日本青年銃剣道大会に参加した。

また、1普通連は8月13日、日本武道館で行われた第55回全日本青年銃剣道大会に参加した。

また、1普通連は8月13日、日本武道館で行われた第55回全日本青年銃剣道大会に参加した。

# 魂の全力疾走

1普通連

## 富士登山駅伝競走大会

第1普通連連隊は8月15日、静岡県富士市において行われた、秩父宮記念49回富士登山駅伝競走大会に参加した。



全身全霊で襷を次の走者に繋ぐ



連隊長を中心に上位入賞の勝どきを上げる

照りつける日差しの中、山頂を目指して走る。大会は午前8時30分スタート、全長19.9キロメートル。19キロメートルを合計6人で走破する。極めて過酷な競技会であり、北は北海道、南は鹿児島県まで全国各地から自衛隊の部及び一般の部を合わせて100チームが参加し、日頃の練成成果を競った。

監督の第4中隊工務2曹率いる1普通連は序盤からペースを握り、富士登山駅伝大会の幕を開いた。

32普通連

## 再会を喜び合う

おかえり！派遣海賊対処行動支援隊

第32普通連連隊は、令和6年7月31日、大宮駐屯地講堂において第1師団主催の「第21次派遣海賊対処行動支援隊帰国行事」に参加した。

2中隊長以下派遣隊員は1月にアフリカ・シブチ共和国へ出陣した。派遣先のシブチ共和国は日本から約1万キロ離れた南アフリカ大陸北部に位置し、酷暑には気温約50度を越える過酷な環境の中、派遣隊員は約半年にわたる活動拠点の警備や維持管理などの任務に就いた。

夜間に実施された帰国行事であったが、多くの家族や連隊の隊員に笑顔で迎えられ隊員達は互いに肩を叩き合って再会を喜んだ。

スエズ運河に通じるソマリア沖アデン湾では、海上自衛隊が護衛艦及び哨戒機などにより不審な船舶の監視や周辺海域の警戒監視を実施中である。我が国にとって欧州や中東からアジアを結ぶ重要な海上交通路（シーレーン）の安全を確保すること、国際社会の安定と平和に寄与する。



大宮駐屯地に所在する隊員及び家族等で盛大に帰国をする派遣隊員を出迎える

## 全日本青年銃剣道大会 若きエースに密着



32普通連は8月13日、日本武道館において開催された第55回全日本青年銃剣道大会に参加した。

1普通連はAチームが2回戦で惜敗、Bチームがベスト16、青年2部ではベスト16の成績を収めた。

今回は、初めて1部の大将を任された1中隊の第3曹（写真前列左から2番目）に試合前から当日まで密着した。

【今回の試合への思い】  
大将としては先鋒や中堅がどんな結果で終わっても最後は勝って試合を終えたいです。また、願っています。

【試合を終えて】  
悔しくも入賞にはなりませんでしたが、やり抜くことが出来た。この悔しい気持ちを忘れず、次回の試合に活かして、支えてくださる方々の方々に感謝を伝えるように、また一つずつ頑張りたいと思います。引き続き、第32普通連連隊の銃剣道チームへの応援をよろしくお願いします。



原とした敬礼で無事の帰国を報告

帰国行事の動画など  
32連隊の活動を紹介  
ぜひフォローお願いします



## 34普連

日本一過酷な駅伝大会を全面支援  
第49回富士登山駅伝競走大会

第34普通連隊は8月4日、新潟県で行われた第49回富士登山駅伝競走大会を本部署連隊員として、以下約100名が通過、人員輸送、救護、誘導補助等に全面的に支援した。



二合八勾の中継所で選手の救護にあたる隊員

本大会は新潟県市陸上競技場から富士山山頂を折り返し、再び競技場を目指す距離48・19km、標高差3199mの日本一過酷な条件下で戦い合う駅伝大会である。

本連隊は一般の部及び自衛隊の部の計100チームにおよぶ参加は、高尾山のある11区間を6人のみで一人で往路・復路の2回を出走し、チーム・個人の名誉をかけてたすきを繋いだ。

支援に参加した隊員は各選手の健康を祈りつつ、各種支援を積極的に行い、円滑な大会運営に寄与した。また、連隊の持続走チームも選手として参加し、総合29位、自衛隊25チーム中17位と健闘した。

## 第2回連隊爆破訓練

## 障害処理技術の向上を図る

連隊は7月18日、青森県八戸市において第2回連隊爆破訓練を実施し、障害処理技術の向上を図った。

訓練は施設作業小隊が、青森県八戸市、市街地戦闘における突入口形成のためのドブの破壊、対

戦車地雷の処理訓練等を、破地点において、それぞれに訓練された。また、連隊の持続走チームも選手として参加し、総合29位、自衛隊25チーム中17位と健闘した。



準備を整え爆破位置へ前進する隊員



本号の詳細は☒で

フォロワー募集

己の実力を発揮！砲手試験に挑む  
猛暑に負けず澁刺と

81mm迫撃砲の砲手試験に挑む新隊員

連隊は青森駐屯地において7月23日、新隊員後期訓練（迫撃砲区隊）の「砲手試験」を実施した。（写真）

迫撃砲区隊は教育開始以来、砲手試験に向けて81mm迫撃砲または120mm迫撃砲の砲手として、日々の演習訓練に励んでいた。

新隊員は連隊の中、その成果を遺憾なく発揮し、満点得点を目標として試験に挑み、満点汗をぬぐった。

班長の命令に素早く従い、演習を遂行し、迫撃砲の設置・照準を完了した。動作を行っていた。

試験を終えた新隊員からは「緊張したが全力で試験に挑み、自分の力でできることを実感することができた」と自信をのぞかせていた。また「砲手のみならず、一人前の普通連隊員になるため、引き続き各種訓練に全力で励みたい」と今後の抱負を話してくれた。

## 1後支連

連隊一丸で任務を完遂  
2カ月わたる第1次師団演習

第1後方支援連隊は、5月6日から7月13日まで、第1次師団演習に参加し、平時における隊務活動から戦時態勢に転換する環境下での行動、連隊から部隊運用を経て、首脳機能の維持に際する部隊及び隊員の連隊向上を図ることを目的に、長期作戦に必要となる勤務訓練、基礎的事項等について明らかにし、後の訓練の基を築くことになった。



大量に発生した傷病者の応急救護を迅速に行う

連隊は戦時態勢が徐々に緊迫する状況の中、作戦準備の当初において首脳機能の維持に必要な近距離射撃訓練、法令教育、築城・陣中構築等の各種機能別訓練を実施して態勢の強化を図った。

また、連隊の強化に伴い、戦時態勢下においては、突発的に発生する支援任務に際し、補給、整備、輸送及び衛生の各種支援を迅速・確実に行い師団各部隊の任務遂行能力維持に寄与した。

また支援業務と並行して、重要防護施設等の防護及び近距離等により不法行動対処を迅速かつ適切に実施した。

## 師団演習に参加して



第2整備大隊 須藤 穂海 3曹

第2整備大隊は、師団演習に参加し、突発的に発生する支援任務に際し、補給、整備、輸送及び衛生の各種支援を迅速・確実に行い師団各部隊の任務遂行能力維持に寄与した。

また支援業務と並行して、重要防護施設等の防護及び近距離等により不法行動対処を迅速かつ適切に実施した。

また支援業務と並行して、重要防護施設等の防護及び近距離等により不法行動対処を迅速かつ適切に実施した。



重要防護施設の巡察兼ねて障害の保守点検を行う

## 百花繚乱一後支連

きたまち阿波おどりに50名が参加



連隊は7月27日、青森県八戸市において、第2回連隊爆破訓練を実施し、障害処理技術の向上を図った。

訓練は施設作業小隊が、青森県八戸市、市街地戦闘における突入口形成のためのドブの破壊、対

公式 X 検索

#1後支

@1log nerima

# 高射部隊の聖地 静内にて要撃成功 1高大

## 令和6年度対空実射訓練検閲

第1高射特科大隊は7月28日から30日の3日間の間、静内対空射撃場（北海道）において令和6年度近SAM・短SAMの対空実射訓練検閲を実施した。本訓練検閲において、高射中隊が戦術目標とする目標支援の下、指揮情報中隊及び高射中隊の偵察・射撃支援及び対空実射に際しての検閲・判定を受け、高射部隊の戦術向上に資する教訓を導出した。



「目標捕捉！発射！！」近SAM発射の瞬間

### 訓練所感

指揮情報中隊  
田村2曹



大隊は年度当初から高射部隊における戦術能力の向上を図るべく、昨今の航空脅威の趨勢を踏まえ、遠くへ航空目標（標的機）に対する射撃能力を向上させてきた。今年度の対空実射は、対空射撃面が小さい新機種のSAMが使用され、また、大隊初（短SAM射撃は高射初）となる新たな射撃要領による要撃への挑戦であったものの、各隊員はこれまでの訓練成果を存分に発揮し、近SAM及び短SAMにも正確に要撃を成功させ本訓練検閲を終了した。

# 1施大

## ゲリ・コマ等対処における障害処理

### 大隊の施設技術能力向上を図る

第1施設大隊は6月16日から25日までの間、東郷富士演習場において、令和6年度第1次大隊野営訓練を実施し、各種任務遂行に必要な能力の向上を図った。

当初、各中隊計画による陣地構築等の訓練を実施した後、大隊統制訓練としてゲリラ・コマンド等対処における障害処理のための爆破訓練を実施した。爆破訓練においては、建物への突入時に必要となる爆薬の搬送、設置、爆発の検証を行った。

訓練を担当した3中隊の3班3射は「各中隊の訓練向上を図るため、爆薬の搬送・設置に関する有用な成果を得ることができた。また、爆発の検証結果を大隊内に普及していききたい」と語った。



### 新隊員後期「漕舟訓練」

## 新隊員たちの熱きレース



班の誇りを懸けて必死に漕を漕ぐ

大隊は担任する第22期一般隊員候補生課程後期教育及び新隊員特設訓練「施設」教育において、漕舟訓練を実施し、施設科隊員としての必要な漕舟技術の向上を図らせた。

漕舟訓練の集大成として、7月26日に志木市立秋ヶ崎運動公園において各班対抗レースを実施した。

日差しが照りつける中、第1班から第5班は各班の誇りと個人の奮闘を懸けてタイムを競い合った。



優勝した第1班

## 地域に根差したコンサート



力強い響きを披露する1音



地元高校生とメロディーを奏でる

第3回王子コンサートは7月23日、北の大地（北区内）において第3回王子コンサートを行った。このコンサートは、音楽科隊員及び音楽科隊員の子供たちを対象に、音楽科隊員に対する感謝及び親近感の醸成を目的として開催しており、毎年地元高校生との合同演奏を行う。地域に根付いたコンサートとなっている。

第3回は合同演奏のステージとして、成立学園中学・高等学校及び成徳大学高等学校吹奏楽部が加え、行進曲「ピスト・ポーナ」をはじめ2曲を演奏し、アンコールでは音楽科一体化となる手拍子を加えて「シンクロ・ボンハイエ」を演奏、大盛況の中終演を迎えた。

## 1音

### 第3回王子コンサート

第1音楽隊は7月23日、北の大地（北区内）において第3回王子コンサートを行った。このコンサートは、音楽科隊員及び音楽科隊員の子供たちを対象に、音楽科隊員に対する感謝及び親近感の醸成を目的として開催しており、毎年地元高校生との合同演奏を行う。地域に根付いたコンサートとなっている。

## 1飛

### 酷暑に負けず的を射抜く ドアガン射撃訓練



パイロットと連携しての重機関銃での射撃



夕日を背に射撃

第1飛行隊は、後方コバタから機内射撃（ドアガン射撃）訓練を実施した。射撃部隊の1普通、32普通、34普通、1後援連射において、各用機及び東部方面航空隊は空

中総動部隊と地上総動部隊に分かれ7月17日に各駐屯地を出発、7月20日に佐多射撃場に移動を完了した。

射撃は重機関銃及びM16系銃器による射撃であり、各射手は銃撃の中、様々な射撃要領を射撃した。

射撃部隊は7月23日に射撃訓練を終了し、それぞれの帰路についた。

本訓練に初めて参加した第1飛行隊は「今回の射撃訓練を通じて、新たな射撃能力を身につけたい」と熱い想いを語った。

1飛行隊は引き続き、高射部隊の任務を担う第1師団の任務遂行のため、訓練無休の精神で訓練の向上を期すべく取り組んでいく所である。



支援部隊に技術サポート  
日か、7月20日の開戦、  
第1師団は訓練機を要  
請し、第1師団の主たる  
任務「首都防衛」特に首  
都機能維持に必要な作戦  
遂行能力について、昨年  
末より計画的に大隊訓練  
の実施や検証を積み上げ  
て本隊に臨んだ。

情報通信技術の発展は  
日進月歩であり、1通大  
の任務として全ての知識  
技術を駆使し、制約事項  
を克服、指揮の命脈とし  
て作戦全期に渡り通信を  
確保し、指揮通信網を必  
要な時期に構築に備えし  
挑戦を続けている。

現代戦においては、情  
報、シグマ、サイバー、  
セキュリティ、電磁波と  
いった新たな要素した極  
域の優劣は作戦に大きく  
影響を及ぼす。したがっ  
て、通信部隊としての機  
能に対応すれば最目となる  
このため、首都防衛の任  
務に就く我々はそのこと  
(必須スキル)が必須  
であると思ひ感じつつ  
これからは努力を惜しま  
ず日々訓練に励み進化  
を続けている。

# 1 通大

必通精神を堅持して挑む  
第1回師団訓練検閲を受閲

で維持・運営すること  
求められる。

大隊の隊員は、取り扱  
う器材は最新であつても  
温故知新「必通」の精神

## 1 特防

## 佳 仲

間と境を

## 新たな大隊長を迎えて

## 要望事項に「闊達」「不撓」を掲げる



当日は、天候にも恵まれ、副大隊長指揮の下、副師団長を近畿紹介行事を実施し、その後、責任状に締結し、佐藤大隊長は儀式方針に共に賛同し、要緊事項に「関連」「不連携」を掲げ「何にでも挑戦すること、折れること、固守すること、恥づかないこと、勝らないこと」その要義を掲げたと訓示した。

大隊は佐藤大隊長を核心として、大隊全隊員が一致団結し、任務先達することを書いた。

**MVC・RCVの射撃練度の部隊の作戦遂行能力向上の礎**

大は7月12  
での間、車  
において全  
16式機動  
及び87式  
RCV) 射  
した。

日本が  
東洋土  
に6年  
にわた  
る戦争  
を遂げ  
た。戦  
況は、  
日本が  
有利な  
状態に  
あり、  
中国は  
敗北の  
運命に  
陥り、  
日本は  
中国を  
完全に  
征服す  
る。戦  
況は、  
日本が  
有利な  
状態に  
あり、  
中国は  
敗北の  
運命に  
陥り、  
日本は  
中国を  
完全に  
征服す  
る。



MCVの停止間射撃



RCVの停止間射撃



RCVの停止間射撃

## 化学科の将来を担う新隊員



除染車を使用しての地域除染訓練（写真④）



班付から除染要領の指導を受ける新隊員



(写真⑤)  
 特殊課程「化学科」を  
 任している  
 新しい戦車の9月に  
 富士演習場で実施される  
 総合訓練に明け、演習駐  
 屯地内において除染班の

「防護マスクと化学防護衣を着用したMOPP+の状態においては班員と班員間の認識の共有が非常に難しいです。またストレスによる熱中症のリスク等や不安もあります。が、仲間たちとともに総合訓練での任務遂行に向けて全力で臨んでいきます。」と力強く語られた。

新隊員は、首都圏の防衛警備に任ずる少数精鋭の化学部隊員としての使命を自覚し残された教育期間をまい進していく。

[illegible]

## 1 特防

仲間と共に乗り越える  
佳境を向かえた新隊員後期教育

第1特務兵器防護隊は、7月1日から9月25日までの間、津原駐屯地において東部方面管内に配置される一般陸曹候補生及

当初、班員による展示説明の後、実習に移行して人員除染から善悪品除染に至る一連の動作を反

---

**HMG対空実射訓練 1師付**



組長の号令・指揮により標的機を追跡する射手

第一師團司令部射撃隊は9月6日から17日まで、第二師團が実施した令和6年度HGM射撃訓練(12・7師團機動隊)に参加した。

一師団隊から3人の隊員を選抜し、7月16日から21日までの期間に実施された対地集射訓練に参加させ、対地目標射撃にきり集射感覚を把握させ、対地集射訓練に不可欠な地味作業を行って、狙撃手及び射手の連携・調整の強化を図った。

対地集射として参加した小隊一員は「射撃手が正確な目標、距離及び目標の通視を確認できるように、対地集射訓練から始まる。明確な射撃意図を心がけた。その後の反響を対地集射では確認できなかった」と話した。また、射手でも参加した均等3曹は「初めてHGM射撃訓練に参加したが、距離、高度、風速など様々な要素を考慮し、狙撃手や射手との連携を要する点に、一層の集中が求められた」と話す。

一師団隊は、射撃訓練で戦術能力向上に努める一方、今後も遠征派遣に備え、戦術能力向上に努める。

|       |     |             |             |         |      |               |                |
|-------|-----|-------------|-------------|---------|------|---------------|----------------|
| 20-76 | USP | 8370-25-959 | 27-1526-178 | 6070293 | 3993 | 27-145703-381 | 32-1008111-962 |
|-------|-----|-------------|-------------|---------|------|---------------|----------------|

